

# 答 辞

---

私たちが生まれ育った「平成」の世も終わりを告げ、「令和」初めての春を迎えることができました。このようなお目出たい、またとない巡り合わせの季節に、私たちの門出を祝う素晴らしい卒業式を挙行していただいたことに、心より感謝申し上げます。今ほど、校長先生、在校生の方から心に沁みるお言葉を頂き、改めて仲間との惜別を実感し、星稜高校で三年間を過ごせたことに感謝する次第です。

思えば三年前の入学式。私は、魂が抜けた状態で入学式に臨んでいました。受験で味わった挫折は、これまでの私の人生の中で最も大きな敗北感となり、高校生活に対する期待や、わくわく感を感じることができず、この状態が三年間ずっと続くのではないかという不安が大きく襲ってきました。しかし、そのような心配も次第に消え、いつしか毎日、今日は何があるだろうと胸を躍らせながら教室に入ることが当たり前になっていました。これは、私の気持ちをポジティブにさせる環境をつくってくれた先生方や友人たちのお蔭でした。様々な行事を共に成功させ、放課後に一緒に勉強をし、くだらないことでいつまでも笑ってお腹を痛くさせたり、思い出せないほどの幸福感が私の心を癒し、前向きにしてくれました。

クラスの絆を深めた修学旅行やコースの枠を越えて競い合った運動会や体育大会、全員で知恵を振り絞り、当日ぎりぎりまで必死に準備をして迎えた星稜祭。中でも夏の甲子園球場での野球部の大活躍は、私たちに計り知れない勇気を与えてくれました。選手たちの熱い闘志、そしてピンチの時ほど笑顔をやさないチームワークは、在校生はもちろんのこと、同窓生や先生方、全国の人たちに感動を与えました。まるで応援している全員と一緒にグラウンドでプレーしているかのような、あの一体感と興奮は、一生忘れることのない経験

となりました。このような、仲間と共に過ごし、支え合った経験は、必ず今後の人生に生きてくる財産であると確信しています。

私は硬式テニス部に所属すると共に、小学生の時から通いつけているテニスチームの練習も続けました。入学時、私は、「文武両道」を極めるという目標を掲げました。スポーツと勉学には共通点があります。それは、失敗が多く、そこから多くを学べるということです。ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥氏は、ある対談で「研究は失敗の積み重ねであり、失敗の数が多いほど、素晴らしい結果が生まれる。あのイチロー選手ですら、生涯打率では約三割しかヒットを打てなかった。研究の成功率はもっと低く、一割にも届かない。失敗を恐れてはいけない。」と語っていました。私は星稜高校という環境のもとで、失敗を恐れず、むしろ失敗や挫折の中から新たな可能性を見つけ出そうとするチャレンジ精神を養うことができました。もちろん、この目標を達成するために努力できたのは、自分一人の力ではありません。学校生活を共にした友人や部活動の仲間、担任やテニス部顧問の先生、他学年の先生や受験勉強の終盤に私のわがままを受け入れて指導して下さった先生、このような私を支えてくれた方々のお蔭で、充実した三年間を過ごすことができました。そして、何よりも家族の理解と協力が大きな支えであったことは言うまでもありません。入学当初、不安でいっぱいの私を、「中学の三年間、よく頑張ったな。」と励ましてくれた両親。勉強や部活の際の送り迎えや、夜遅くなってからの食事の準備。私よりもっと多忙な父と母が、いやな顔一つせず、不規則な私の生活リズムに合わせてくれ、私を応援し常に背中を押してくれました。母が毎日作ってくれたお弁当、昼休みにふたを開ける時がとても楽しみでした。父は、進路選択で迷った時に最善の道を示し、常に陰で見守ってくれました。お蔭で私は、この三年間に多くの友人や良き先生方に囲まれ、成長することができました。今まで本当にありがとうございました。

今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるということもあり、

日本社会はこれまで以上に海外からの注目を浴びると共に、5GやAIといった新技術が導入され、異文化との交流が増え、新たな価値観に触れる機会が増えることでしょう。このような急速に変化を繰り返す社会の中で、私たちは自分のやりがいや生き方を見つけていかななくてはなりません。短期間で結果を求められる世の中の傾向はさらに加速し、あふれ返る様々な情報の中で、私たちは柔軟に対応できる寛容さと許容力を身につけると共に、急速な変化に安易に同化せず、自ら主体的に考える力が必要となってきます。このような力は、過去の失敗や経験で養われますが、時にはこれまでの価値観にこだわらずチャレンジする勇気も必要です。さらに助けとなるのが、高校生活で築いた人間関係です。地元石川県はもちろんのこと、多くの同窓生が国の内外を問わず様々な分野で活躍されていることは、周知の通りです。私たちは先輩たちが築かれた貴重なネットワークを大いに活用し、それをさらに広く深めていくことで、母校への恩に報いたいと思っています。

在校生のみなさん、高校生活の中では楽しいことはもちろん、つらいことも経験することでしょう。そういう時ほど周囲の人たちとの関係を大切にしてください。必ず誰かが力になってくれます。私は在学中、「一期一会」という言葉を意識するようになりました。どんな出会いや経験も、自分を成長させるための大事な縁であると、肯定的に受け止めることが肝心です。一度しかない高校生活の一日一日を大切に、大いに楽しんでもらいたいと願っています。

最後になりましたが、ご来賓の方々をはじめ、理事長先生、校長先生をはじめ、諸先生方、在校生の皆さんの益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。卒業生一同を代表して、お礼申し上げます、答辞とさせていただきます。

令和二年三月三日

星稜高等学校 卒業生代表 鏑木 隆太郎